



おこちやま
メモリーズ



ひとする

- プロローグ～ 妊娠検査薬～
- 妊娠中 1. 色々決心した日
- 妊娠中 2. 報告 / 子供の名前 / 立会い出産
- 妊娠中 3. お腹の中の音 / 育児セミナー / 反応
- 妊娠中 4. 体重 / 活力 / 胎動
- 妊娠中 5. 音楽 / まんまるお腹 / 性別
- 妊娠中 6. 妻の症状 / 胎児名 / 胎動というより衝撃
- 妊娠中 7. 紙魚 / 妻の目
- 妊娠中 8. セカンドオピニオン / 足の爪
- 妊娠中 9. 下垂体線種
- 妊娠中 10. 産婦人科の先生の見解
- 妊娠中 11. 胎動共感
- 妊娠中 12. 今後のスケジュール
- 妊娠中 13. 葛藤 / 命名
- 妊娠中 14. 予約確定 / ビデオカメラ / 散髪
- 妊娠中 15. 入院前日 / 入院当日
- 妊娠中 16. 誕生
- 出産後 1. 歩く練習 / 母乳
- 出産後 2. 色々決めた / 出生届 / へその緒
- 出産後 3. 下垂体線種の説明
- 出産後 4. 下垂体線種手術前日
- 出産後 5. 下垂体線種手術当日
- 出産後 6. いっしょに報告
- 出産後 7. 車椅子 / 尿崩症
- 出産後 8. 点滴 / ようやく
- 出産後 9. 朗報
- 出産後 10. 妻の顔 / 妻の様子
- 出産後 11. 退院延期
- 出産後 12. 経過観察
- 出産後 13. 内科受診 / 突然のしらせ
- 出産後 14. そして退院
- エピローグ～ 駅の看板～
 - ・ 今回の経験を通して思ったこと
 - ・ わが子へ。。。
 - ・ 妻へ。。。

プロローグ ～ 妊娠検査薬 ～

ある日。。。

日曜日の朝なのに妻に起こされた。

「妊娠検査薬に陽性の反応が出たよ！」

興奮気味にそう言われた。

すごく眠かったけど、すごくうれしかった。

結婚して12年目のある夏の日のお出来事だった。。。

色々決心した日

妊娠145日目

今日初めて、妻に付き添って産婦人科へ行った。

待っている間、壁に張ってあった「出産準備教室」のポスターを見て、なんとなく出産に立ち会いたいと思った。

マイクを妻のお腹にあてて、あかちゃんの心音を聴かせてくれた。

トクントクン、トクントクン。。。思ったより早い。

よかった生きてた。

次にエコーを見る部屋へ。

僕はどうしていいかわからず突っ立っていると、

「後に立って見てください」

と、看護師さんに言われた。

モニターを見ると、手を顔の前にもってきたり、足の指を動かしたりしてる様子があった。

男の子か、女の子かは、残念ながら分からなかった。

元気に動く赤ちゃんを見て、近いうち上司に子供ができたことを報告しようと思った。

帰りに赤ちゃん用品店で聴診器を買った。

家に帰ってから、さっそく妻のお腹にあててみたが何も聞こえてこなかった。

妊娠146日目

上司に子供ができたことを報告した。

「おめでとう」
と言ってくれた。うれしかった。

僕は
「だからずっとマスクしてたんですよ。インフルエンザ流行ってて怖いんで」
というと、

「後悔はしたくないから、やれることはしときたいもんな」
と言われた。

妊娠147日目

- ・響きが心地いい
- ・カタカナで書きやすい
- ・あだ名じゃなく本名で呼んでもらえる

そんな名前をつけたいと思った。

妊娠149日目

立ち会うことが、出産の妨げにならないかなと妻に聞くと、

「きっとそんなことを気にしてるような場合じゃないだろうから大丈夫」
と言われた。

妊娠152日目

妻のお腹がみるみる大きくなっていく。。。

聴診器をあててみた。

心音はまだ聞えなかったが、不思議な音が聞えた。

血流の音だろうか？

聞いているうちにだんだん眠くなってきた。。。

妊娠156日目

市が主催している育児セミナーに参加した。

「妊婦体験」 や 「沐浴体験」 などいっぱい体験したけれど、一番大切なのは、

「相手（妻、子供）を思いやって行動する事」
だと思った。

妊娠164日目

お腹に向かって話しかけると、

「ポーン、ポン」
と返してくる。

それは手かな？それとも足？

。。。もしかして頭？

とても楽しい。

妊娠 171 日目

出産準備教室 というものに参加してきた。

妻の体重があまり増えすぎると、産道が狭くなり良くないということを学んだ。

そういえば、最近妻の顔がふっくらしてきたような。。

かわいそうだけど、あまり食べすぎないように注意しなきゃいけないと思った。

妊娠 182 日目

最近仕事が忙しく、いつも終電間近になってしまう。

でも、寝る前には必ずお腹に話しかけるのが最近の日課になってきている。

「おーい、おーい」と話かけると、

「ポコポコ、ポコポコ」と返事してくれるのが嬉しい。

さあ明日も頑張ろうという気持ちかわいてくる。

話かけるのがいつも遅くなってごめんね。。

妊娠 183 日目

胎動が。。

「ポコポコ」

から

「ドンドン！！」

になってきた。

お腹の表面を見ていると、モコモコ動いてるのがわかるくらいだ。

しかし、動いてる位置からすると明らかに体が横向きになっているのがわかる。

いい子だから、頭を下向きにしようね。。

妊娠186日目

リズムの良い音楽をかけると、よく動くみたい。
お母さんと同じで、音楽が大好きなんだね。。

妊娠194日目

妻のお腹がすごく大きい！
というか、丸い！
でも、きれいな形だと思った。

妊娠203日目

今日の産婦人科の定期健診で、子供の性別が分かったと妻から電話で聞いた。
おそらく女の子だそうだ。。
自分ではわからなかったが、女の子と聞いたときの僕の声のトーンがあきらかに高かったと妻が言っていた。

夜、妻のお腹を見ていると、動いているのが、目で見ても分かるようになっていた。
すごく元気がいいけど、ホントに女の子？

聴診器をお腹にあてて聞いてみるとお腹を蹴ったときにすごい重低音がした。

妊娠224日目

おなかが大きくなるにつれ、胃が圧迫されるので、つわりのような症状が再発してるみたいだ。他に、なぜか目が見えにくいらしい。眼科で診てもらっても異常無しと診断された。

かなりつらそうだ、代わってあげられないのがつらい。。

がんばれ妻！

赤ちゃんもがんばれ！

妊娠228日目

お腹の子供に話しかけるため、胎児名は自然とつけていた。
胎児名は赤ちゃんからとって「あーちゃん」

そろそろ本当の名前も考えねば。。

妊娠229日目

妻のお腹の形が激しく変わるほどの胎動。
お腹をさわると、めちゃくちゃ硬いでっぱりがある。
でも押さえるとすぐひっこめる。
あまりの激しさに妻が痛そうだ。

妊娠229日目

畳の上に茶色くウネウネ動いている虫がいるのを見つけた。

インターネットで検索し、調べてみると、どうやら紙魚しみという虫みたいだ。

人に害はないみたいだけど、子供のことを考えると駆除したほうがいいのだろうか。

今までだったら、全く気にしなかったことだが、どうしたものか。。。

妊娠234日目

妻の目が見えにくい症状が一向に改善しない。。。

眼科でも産婦人科でも異常なしと判断され、原因が全くわからない。

ただでさえ妊娠中は色々ストレスがかかるのに、それに加えて目が見えにくいので、本人もかなりまいっているみたいだ。

本当に妊娠中に起こる症状のひとつなのだろうか。

出産したら症状は直るのだろうか。。。

とても心配だ。。。

妊娠238日目

あいかわらず妻の目は一向に改善しない。

産婦人科では眼科で受診するよう言われ、眼科では妊娠の症状ではないかと言われた。

全く、らちがあかないので、別の眼科を受診することにした。

平日だったので、眼科へは妻一人で行ったのだが、昼休み中に妻から、

「脳に腫瘍がある疑いがあるって言われた」

と、泣きながら電話がかかってきた。

ひどくうろたえている様子だった。

今すぐにでも妻のもとへかけつけたかったが、電話で会話しているうちに落ち着きを取り戻してきたため、家でゆっくりしているように伝えた。

仕事から帰宅し、妻から眼科から説明された内容を詳しく聞くと、部分的な視野欠損は明らかにおかしい状況なので、すぐにでも脳神経外科を受診したほうがいいと言われ、紹介状を書いてもらったらしい。

精密検査を受けなければ、はっきりしたことはわからないらしいが、軽度のものであることを願う。

でも、なんで今なんだ。。。！

妊娠241日目

妻が、

「おなかが邪魔で足の爪が切れない」

というので、切ってあげた。

こんなことしかしてあげられなくてごめん。。。。

妊娠243日目

妻が、眼科に紹介してもらった脳神経外科を受診してきた。

下垂体という場所に腫瘍があり、しかもすでに出血しているらしい。

出血で下垂体自体の体積が大きくなり、視神経を圧迫したことが視野狭窄^{しやきょうさく}（視野の一部が見えない状態）を引き起こしている原因ということがわかった。

そして、手術で腫瘍を取り除かなければ最悪の場合、失明や生命にかかわるということを説明され、今すぐ手術するかどうかの選択を迫られたらしいが、当然ながら妻はその場では判断することはできなかった。

夜、妻と2人でお互いどうしたいかを話し合った。。。

- ・脳神経外科の先生いわく、半年間は手術しなくても恐らく大丈夫。
- ・手術は全身麻酔にて行うが、お腹の子供に影響は恐らく無い。
- ・出産により、腫瘍が悪化することは恐らく無い。

とのことだったが、全身麻酔がお腹の子供に影響を及ぼさない可能性が全くないわけではないこと、腫瘍がある状態で出産をしても悪化しないということ、そして子供のことを第一に考えると、

「まず出産した後、下垂体の手術を行う」
というのが2人の結論だった。

そして、明日産婦人科の先生に相談し、最終どうするかを決定することにした。

妊娠244日目

産婦人科の先生に脳神経外科での検査結果を伝えると、

「下垂体に腫瘍がある状態で出産するのは危険」
とハッキリ断言されてしまった。

腫瘍がある状態で出産をするだけでもリスクは高いのに、すでに出血してしまっている状態で出産することは、絶対に避けなければいけないとまで言われた。

下垂体の手術を行ってから出産、または二つの手術を同時に行うやり方がベストらしく、ここは総合病院なので、脳神経外科と産婦人科で連携すればそういった対応は可能ということだった。全身麻酔がお腹の子供に対する影響が全く無いとは言い切れないが、出産時に全身麻酔を行うケースもあるので、そんな事よりもまず母体を優先しなければならないと言われた。

短い期間にめまぐるしく、いろんなことが起こり、僕は冷静な判断をすることができていなくなっていた。

何が一番大事かを改めて思い知らされた。

先生にベストな判断をしていただけたようで、正直ホッとした。

そして手術、出産に向けての具体的なスケジュールについては来週決定することになった。

妊娠しているだけで、精神的にも肉体的にも大変な上に、目が正常に見えない状態というのは想像を絶するほどに大変だと思う。

苦しみを分かち合えないのがつらい。

あともう少しで楽になれると思うので大変だろうけど頑張っしてほしい。

一方で、お腹の子供は順調にすくすくと育っている！！

妊娠246日目

妻のお腹と、僕のお腹をくっつけると、間接的に胎動を感じることができる。

おもしろい。

ここ2・3日で、お腹の赤ちゃんが急に大きくなってきてる気がする。

いい子だから出てくるのはもうちょっと待ってね。。

今後のスケジュール

妊娠252日目

昨日、産婦人科と脳神経外科の先生とで今後のスケジュールについて話し合いが行われた。

先日、相談した結論では母体を優先するため、まず下垂体線種の手術を行ってから、出産するという段取りを考えていたが、検討した結果、やはりまずは出産をした後に下垂体の手術をすることに決定したらしい。

ただし、脳に腫瘍がある状態で通常の出産行うのは、危険らしく帝王切開にしようと言われた。

おおまかなスケジュールは

- ・ 出産予定日の約1週間前に帝王切開で出産
- ・ 産後1週間ほどの入院期間中に再度MRIで下垂体の状態を検査
- ・ 下垂体の状態を見て、手術する日を決定
(下垂体線種手術自体での入院期間は1週間～10日程度)

出産後に撮影するMRIでは造影剤を使用するため(妊娠中はお腹の子供への影響を考えると使用できない)より詳細な状況を確認することができる。

造影剤を使用したMRIでの検査の結果、もし下垂体内の出血が止まっているようであれば、血液は徐々に体内に吸収され、下垂体の体積は小さくなっていはずなので視神経への圧迫は徐々に減っていくこともあるらしい。

もし、^{しやきょうさく}視野狭窄が無くなるまで改善されれば、下垂体の手術を先延ばししても問題ないとのことだった。

ただし、再度出血し^{しやきょうさく}視野狭窄が急激にひどくなることもありえるので、もしそうなった場合は帝王切開を行う日取りを早め、緊急で下垂体の手術を行うこともありえると説明していただいた。

とにかく今、妻ができることは、

- ・ 出産の日を向かえるまで日々穏やかにすごすこと。
- ・ 目の状態に日々気をくばり、おかしいと思ったときはすぐ病院へ電話すること。

僕にできることは手術が無事終了して、一日でも早く妻の状態が良くなることを祈ることだけだった。

妊娠256日目

妻の目の状態は全く良くなっていないようだ。

本当は、今すぐにでも下垂体の手術をし、視神経を圧迫している状態を一日も早く解消した方がいいことは分かっている。

視神経を圧迫している状態が長く続くと、神経が死んでしまう可能性があり、もし神経が死んでしまうと二度と回復しないということは眼科の先生からも説明があったし、視野狭窄^{しやきょうさく}が発症した場合はすぐにでも手術した方がいいと、脳外科の先生からも説明があった。

でも、お腹の子供のことを思うと、出産はギリギリまでまった方がいいということもわかっている。

毎日、祈っている。

下垂体内の出血が一日も早く吸収され、視力が回復しますようにと。

毎日祈っている。。。

一方、お腹の赤ちゃんは、今日も元気に妻のお腹を蹴り続けている。

妊娠259日目

今日、子供の名前を決めた。

最終的には生まれてきた子供の顔を見て決める予定なので、候補がいくつかある。

妊娠264日目

入院する日、そして帝王切開を行う日が確定した。

妻はあまり動かないよう、産婦人科の先生から言われているが、片付けやらなにやらでせわしなく動きまわっている。

妻の目の状況は相変わらずだが、お腹の子供は少しおとなしくなってきたみたいだ。

妊娠265日目

子供撮影用にビデオカメラを購入した。せっかくなので、お腹の中にいる様子も撮っておこうと思う。

妊娠266日目

赤ちゃんに会う心構えというか、特に理由はないけど散髪に行った。

何となく、ヒゲを全部剃った。全部剃るのは5年ぶりくらいだろうか。

美容院の人に

「円形脱毛がありますね」

と、言われた。

入院前日 / 入院当日

妊娠267日目

いよいよ、明日から妻は入院する。

夕食はちょっとだけ奮発して近所のレストランで食べた。

味はイマイチだった。。。

家に帰ると買ったばかりのビデオカメラで妻のお腹を撮影した。

モゴモゴ動いている画を撮影することができた。

ここ何日間かはずっと午前3時ぐらいに布団に入っている。

時間がぜんぜん足りない。。。

妊娠268日目

いよいよ今日は入院当日。

家を出る30分前まで、妻は額に汗しながら家中の掃除をしていた。

旅行に行く前にする行動とまったく同じだ。

妊娠269日目

2010年6月8日 午後4時1分に無事女の子が生まれた。

体重：2715g 身長：48.9cm

手術は下半身麻酔で行うと、事前に聞いていたが手術室に向かう直前に全身麻酔に変更したことを告げられ、そのショックから妻は泣き出してしまった。

付き添ってくれた看護師さんは、妻が泣いている本当の理由が分かっていないようだった。

妻が手術室へ向かった約30分後に、子供が保育器に入れられた状態で目の前を歩いていった。

あまりにも突然の出来事だったので僕は茫然としていた。

麻酔が効いていたのだろうか、子供は眠っている様子だった。

少ししてから、子供を抱きかかえた看護師さんがやってきて僕に抱っこさせてくれた。

僕はまだ茫然としていたが、僕の母親が

「よかったね！！」

言ったのを聞くと同時に涙があふれてきた。

子供はちゃんと動いていたので安心した。

子供の顔をよく見て、候補の中から名前を1つ決めた。

その約2時間後くらいに、妻が面会可能な状態になったので、子供と一緒に会いにいった。

妻は酸素マスクをつけており、意識はぼんやりしているような状態だった。

帝王切開の傷と、子宮収縮による後陣痛による、2つの強烈な痛みがあると言っていた。

HCUと呼ばれる、医師が即時対応できる病室で今晚一晩は過ごすみたいだ。

手術中に子宮筋腫を見つけたので、それも切り取っていただけらしい。

また、妻が全身麻酔から解けた直後に、取り出したばかりの赤ちゃんの写真を見せてもらったと言っていた。

このまま妻は継続して入院し、産後の状態を確認しながら下垂体の手術を受ける予定だ。

つらい状況が続くが、今は自分の体のことだけを考えて、頑張って乗り切ってほしい。

産後1日目

妻がもう歩いていると聞いてビックリした、昨日はあんなに意識朦朧^{いしきもうろう}としていたのに。でも、ちょっと歩きすぎたみたいで、仕事帰りに面会に行ったときには疲れ果てていた。早く回復して、子供のためにも次の手術に備えようという、妻の気持ちは分かるが、あんまり無理はしてほしくなかった。

妻の目の見え方は変わっていないみたいだ。。。

子供に30分程度、ガラス越しに面会できた。
このとき、はじめて娘の泣き声を聞いた。

産後2日目

妻は、脳神経外科の先生から下垂体の手術日が決定したことと、やはり母乳はあきらめないといけないことを告げられた。
僕が仕事帰りに病院へ着いて、妻の顔を見たとき、ずっと泣いていたことがわかった。

妻は目の見え方がちょっとだけマシになっているように感じていたらしく、下垂体の手術を先延ばしにできるのではないかと、そして、手術をするまでの少しの間だけでも母乳で授乳ができることを期待していたみたいだった。

しかし、その望みは打ち砕かれてしまった。。。
妻の目は泣きはらしてめちゃくちゃ腫れていた。

すぐに気持を切り替えることは難しいけれど、今は下垂体の手術のことだけを考えて、何とか頑張っただけ欲しい。
僕達の子供はきっと強いから大丈夫。。。

しかし、同室の同じくママになった人たちが、楽しげに母乳の話をしているのが聞えてくるたびつらいと言っていた。

すごく幸せな時期はずなのに、毎日泣いてばかりいる妻のことを考えると胸が張り裂けそうになる思いだった。。。

産後4日目

子供の名前を正式に決めた。

退院するときに着せるセレモニードレスを買った。

そして、妻と話し合い、これからの予定を決めた。

色々考えた結果、下垂体の手術後は自分自身の体の事だけを考えるため、子供だけ先に退院させることにした。

お願いすれば妻と子供の退院時期を合わせることもできたが、子供と一緒にいるとどうしても、子供のことが気になるし、約1週間、離れ離れになるのはすごくつらいと思うが、これから長く続く子育てを考えると、今は治療に専念し完全に治すことがベストだと思った。

苦渋の決断だった。。。

あと、今は産婦人科の病棟に入院しているが、子供が退院した後は、脳神経外科の病棟に病室を移していただくよう、お願いする予定だ。

産婦人科にいて周りの様子や話声を聞くのはさすがにつらすぎるみたいだった。

妻が退院してくるまでの間、子供の世話は主に妻の母親にお願いすることになるが、僕はできる限りの事はしようと思った。

産後6日目

午前中、会社を半日休暇して、区役所へ出生届けを出しにいった。

届出後、嬉しくなった僕は家族全員分（僕、妻、子供）の名前が記載された住民票を発行した。

産後7日目

先日出産後、看護師さんから手渡されたへその緒。

家に帰ってからすぐ、カーテンレールの淵に洗濯バサミで挟んで干していたが、カラカラに干からびていた。

もう、箱にしまっていないのだろうか。。。？

下垂体線種の説明

産後8日目

妻も今の状況を受け入れ、だいぶ落ち着いてきた様子だった。

看護師さんなどまわりの方が色々気遣っていただいているみたいだ。

本当にありがたいと思った。

今日から脳神経外科の方へ転科したが、外出許可をもらって、少しだけ帰宅させてもらったらしい。

やっぱり、家が落ち着くみたいだった。よく考えると、もう10日も入院してることになる。

病院へ戻り、脳神経外科の先生から、下垂体線種の手術の説明があり、僕も一緒に聞いた。

手術は全身麻酔をした状態で、右の鼻の穴の奥の骨を削り、内視鏡を見ながら行うらしい。先生は脳の模型を使って、詳しく説明してくれた。

2週連続して全身麻酔をすることが気になっていたが、それ自体は問題無いとのことだった。

説明の最後に先生が

「それでは頑張ってください。。。あ、頑張るのは我々ですね。任せて眠っててください」

と言っていたが、本当そのとおりだ。あとはもうお任せするしかない。。。

帰り際にガラス越しに子供と面会した。

ネームプレートに名前が書いてあった。

すごくかわいかった。改めて見てもいい名前だなと思った。

子供の体が少しだけ大きくなったように見えた。

産後9日目

仕事帰りに病院へ駆けつけ、しばらく面会室で待っていると、授乳室から妻が出てきた。僕が近付いていくと、妻は静かに泣いているのがわかった。

明日また、全身麻酔による手術を行う。

もし、そのまま目が覚めなかったら。。。

出産後、徐々に視野は回復しているので、このまま手術は先延ばしにしてもいいのでは？一度は決心した思いが揺らいでいるみたいだった。

下垂体の手術を受けるのが、すごく怖いと妻は言った。

帝王切開手術直前にはそんなこと全く言っていなかったのに。。。

子供が生まれる前だったら、きつとここまで怖いとは思わなかっただろう。

すごく大切なものが出来たからこそ、芽生えた感情にすごくとまどっている。

そんな感じだった。。。

そんな妻に対し僕は、

そっと肩を抱き「大丈夫、大丈夫」と、声をかけることしかできなかった。

下垂体線種手術当日

産後10日目

いよいよ、手術当日。

妻は緊張してはいたが、どこか決意を決めた顔をしていた。

絶対戻ってくる！！そんな強い意志をもった、母親の顔をしていた。

妻は手術室まで歩いていき、笑顔で手を振りながらそのまま手術室へ入っていった。

約4時間半後、妻が手術室からベッドで運ばれて出てきた。意識はあるようだった。

妻はそのままICUへ運ばれていった。

その15分後、面会が許されたので、はやる気持ちを抑えながら妻に会いに行った。

先週に引き続き、酸素マスクをつけられていた妻は、まだ意識がはっきりしていない状態だったが、僕の顔を見ると

「ただいま」と、言ったので、

「おかえり、よくがんばったね」と、答えた。

そして「なんだか頭がスッキリした気がする」と言っていた。

妻は強いなと、僕は思った。

その後、主治医の先生から、手術は無事に成功したことと、手術中の簡単な説明があった。

今夜はこのままICUで過ごすみたいだ。

面会時間終了まで少し話しをしていたところ、妻が右脇腹の少し下の辺りが痛いというので、そのことを先生に告げると、お腹の脂肪を少し切って、それで鼻の奥に空けた穴を塞いだと説明してくれた。

そのことを聞かされていなかった妻は、帝王切開の傷口が開いたのかとあせっていた。

妻との面会を終え、帰り際にガラス越しに子供と面会した。

お母さんの手術が無事終わったことを心の中で伝えた。

娘はスヤスヤと眠っていた。。。

産後11日目

手術翌日の朝、妻は車椅子に乗せられMRIを撮りに行きICUには戻らず元の病室へ戻った。術後の状態も安定しているようで、見えなかった文字も見えるようになっていると嬉しそうに妻は言っていた。

妻の状態を見て、大丈夫そうだったので、僕は車椅子を押し、一緒に子供の面会に行った。土曜日の昼だったので、面会室はすごく混んでいた。

子供はずっと泣いていた。
お腹が空いているのだろうか？

人が多く、ゆっくりと子供を見ることができなかったが、面会時間終了間際、僕達のこと気づいた看護師さんが、子供を抱きかかえて、近くまで来てくれた。

妻は涙ぐんでいた。。。

僕も涙ぐんでいた。。。

病室に戻った妻は、少し熱が出ていた。

「今日はもうこれ以上無理しないからね。」

そう言って少し微笑んだ妻は、かなり疲れている様子だった。。。

産後12日目

妻の尿の量が多いため、尿道カテーテルはまだ外すことができないようだ。
今日も車椅子に乗った状態で、子供の面会に一緒に行った。

腹圧がかかるといけないので、まだ抱っこは禁止されている。
子供が目の前で大泣きしていたがあやすことができない。

妻は今日も静かに泣いていた。

「大丈夫だから。。。」

そう言って僕に心配をかけまいと、無理やり笑う妻の笑顔はぎこちなかった。

僕は早く、妻の本当の笑顔が見たいと思った。。。

産後13日目

今日もまだ、尿の量が多いため、尿道カテーテルは外せないらしい。

どうやら、薄い尿が大量に出る症状（^{にようほうしょう}尿崩症）で、手術の影響だそうだ。
妻はこの症状を改善するために何度も注射を打たれている。
この注射がすごく痛いと言っていた。

この症状自体は、脳神経外科の先生いわく想定内の症状とのことだった。

でも、今日から歩くことが許されたらしく、歩いて子供の面会に行ってるみたいだ。
5分程度なら抱っこすることも許されたみたいだった。

まだつらい日々が続くが、妻には頑張って我慢を続けてもらいたい。。。

産後15日目

今日は仕事が忙しく、面会に行くことができなかった。

電話で状況を確認すると、下垂体の手術後ずっとつけていた点滴がようやく外れたみたいだ。それだけでも、気持ち的に大分楽になったとのこと。

よかった。。。

このまま調子がよければ、明日にも尿道カテーテルを外してもらえらしい。なんとかこのまま回復し、妻と娘一緒に退院してもらうことが僕の望みだ。

そして娘の体重は3000gを超えた。

産後16日目

妻の状態が良好のため、今日、ようやく尿道カテーテルを外してもらったらしい。

良かった。。。

妻は嬉しくて、あちこち動き回っているらしいが、もう少し我慢してほしいというのが僕の本音だ。

産後17日目

今日は朝から、朗報が2つ聞けた。

1つめは、3日後に妻が退院することが決定したこと。

妻の入院が長引くようであれば、子供を先に家に連れてかえることを考えていたが、一緒に退院できそうで、ホッとした。

僕は、すぐ会社へ連絡し当日休むことを伝えた。

2つめは、子供の先天性の検査で異常が無かったこと。

全身麻酔による影響などをちょっと気にしていたのだが、異常が無くて本当に良かった。

これまで、立て続けに色々なことが起こり、ずっと気を張っていたせいなのか、これらの朗報を聞くと強烈な睡魔に襲われた。

思えばずっとあまり睡眠が取れていなかった気がする。

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」

とはよく言ったもので、

妻の症状が分かったときや、手術のときなど、どうすればいいのかわからなくなり、苦しんでいる妻を見ていてもどうすることもできない自分に歯がゆさを覚えたり、つらい辛い日々が続いたが、

今となっては「いったいなんだったのだろう」という気持ちにさえなってくる。

でも、まだ退院したわけではないので、完全に気を抜くのはもう少し先にしよう。

仕事自体は多忙な日々が続いている。

妻の顔 / 妻の様子

産後17日目

今日、仕事帰りに30分だけ妻と子供に面会に行った。

子供は、手足を大きく動かしながら、大泣きしていた。
何か気に入らないことでもあったのだろうか。

はやくあやしてあげたいと思った。

体重は3070g

妻の顔が赤く、全体的に腫れていた。

ホルモン剤の影響で、水分や脂肪を蓄えているらしく問題は無いらしい。

妻は嫌がっていたが、僕はそのまらくてほっぺが赤い顔が、かわいいらしいと思った。

産後18日目

妻の様子があきらかにおかしい。

見るからにしんどそうだ。

起き上がっている時間より、横になっている時間の方が多くなっていた。

子供に会いに行っている回数も減らしているとのことだった。

一体どうしたというのだろうか、すごく心配だ。。。

産後19日目

今日、脳神経外科の先生に手術内容および、手術後の経過状況について説明してもらった。

手術後の検査の結果、妻の下垂体の中にあつたのは腫瘍ではなく、ラトケ^{のうほう}嚢胞という、できもののようなものだったそうだ。

いずれにせよ、悪性のものではないとのことだったので安心した。(再発の可能性も低いらしい)

下垂体自体は手術後も異常は無いらしいのだが、ひとつ気になるのは今の妻の症状で、血液検査の結果、ナトリウムの数値が少し低いみたいだった。

(通常、135~145mEq/lのところ、妻は124mEq/lしかなかった)

これは通常あまり無いことで、先生も想定外の症状だと言っていた。

顔がむくんでいるのも、そのせいらしい。

このまま退院して外来にて経過を見ることも可能だが、最悪の場合意識障害に陥る可能性があるということだったので、ナトリウムの数値が正常値になるまでは、退院は延期した方が賢明ということだった。

とりあえず経過観察のため、妻は入院生活を続けるとになった。

夜、妻から電話があり、再度血液検査した結果、ナトリウムの数値がさらに下がっていると言った。

明日、退院できると思っていた矢先のことだったので、さすがにショックは大きかったらしく、電話口で妻は泣いていた。

「早く帰りたい。。。」

か細い声でそう言われたが、僕は何も言い返すことができなかった。

経過観察

産後20日目

妻の状況だが、ナトリウムの数値が前日と変わっていないらしい。

先生が言うには、当面入院を続け、経過観察した方がいいとのことだった。

昼休みに病院の妻から電話がかかってきた。

「もっと、赤ちゃんに会いたい」

そう言いながら、激しく泣いていた。

僕に気をつかうとか、そういった余裕はもはや無く、妻はありのままの感情を僕にぶつけてきた。

仕事は定時で切り上げ、急ぎ足で病院へ向かった。

病院へ着くと妻はベッドで寝ていた。

心なしか、顔のむくみはましになっているようだったが、まぶたは腫れていた。

一緒に子供の面会に行った。

子供は珍しく目を開けていた。

手足を激しく動かしながら、こちらをじっと見ていた。

妻の退院がいつになるかに関係なく、子供だけは遅くとも今週末には退院させようと妻といっしょに決めた。

産後21日目

今朝は5時に仕事の電話で起こされた。

対応自体は1時間ほどで終わり、出勤するまでの間、昨日の妻の言葉を思い出していた。数日前、退院の日が決まったときに「喉元過ぎれば熱さ忘れる」などと思っていた自分がバカのように思えた。

今日はナトリウムの値の詳細を調べるため、内科の先生が来てくれたらしい。ナトリウムの数値自体は安定してきているらしいが、1つ疑われるのは

「ADH分泌不適切症候群」

というもので、脳外科手術後に合併することが多いらしい。原因が判明すれば、後は外来受診でも問題無いとのことだった。

産後24日目

今朝、通勤途中に妻から電話がかかってきた。

ナトリウムの値が安定してきたので、今週末の退院が正式に決まったらしい。

反射的に「よかったね！おめでとう！」と答えたが、前回のことがあってか、あまり実感がわいてこなかった。電話をかけてきた妻も、僕の反応の薄さに疑問をもったのではないだろうか？

妻との会話を終えたので電話を切り、いつもの満員電車に乗り込んだ。

会社の最寄駅についたとき、周りを見渡すと、まわりの人が上着を着ていないことに気づいた。

最近はまわりを見る余裕もなかったんだなと思った。

まわりの様子に気づいたということは、内心では安心していただけということだろうか。。。

僕は急に暑くなり、着ている上着を脱いだ。。。

そして退院

産後25日目

今日、妻と娘は無事一緒に退院した。

脳神経外科の先生は、最終的な血液検査の結果が出てから、退院させたいと考えていたみたいだが、妻の熱意に押されてか、最終的には先生から退院の了承を得て、結果的に母子ともに退院する形になった。

ただし妻は当面の間、外来受診を続けることになりそうだ。

先に病室にある荷物を、妻の両親に持って帰ってもらい、帰りはタクシーで親子3人で帰った。

妻はほぼ一ヶ月ぶりに病院の外に出たので、少し緊張しているようだった。

子供は病院の外にでるのはもちろん生まれて初めてだったが、スヤスヤ寝ていた。

「大変だったね。。。」

僕は妻にいうと、

「でも、本当に大変なのはこれから。。。」

そういいながら、妻は笑った。

その笑顔は、僕がこの数ヶ月間でずっと見たかった、心から笑っている妻の本当の笑顔だった。

<おわり>

エピローグ ～ 駅の看板 ～

後日、妻が目の異常を知るきっかけとなった、地下鉄のホームにふたたびやってきた。

そして妻は前回見たときは、部分的に文字がかけていた駅の看板を見た。

「どう？」

恐る恐る僕は聞くと。

「はっきり見えるよ！」

そう答えた妻の言葉を聞き、ああ、これで本当に終わったんだなと僕は思った。

今回の経験を通して思ったこと

【セカンドオピニオン】

妻が目の異常を感じた時、はじめに受診した眼科では、「ドライアイ」と診断された。医師の判断結果に少しでも、疑問を感じた時には、セカンドオピニオンは大事だと痛感した。

【親の愛情】

妻は母乳をあきらめ、僕は立会出産をあきらめた。

どちらも、親になるという意識、子供に対する愛情を深めるためには、重要なイベントではあると思うけれども、それらを行うことができなくても、子供に対して十分な愛情を与えることはできると実感した。

【周りの人たちの温かさ】

周りの人たちの温かさにとくさん触れることができた。そして妻は（僕も）何度も助けられた。

- ・ 結果的に一番いい形で手術のプランを考えてくださった先生。
（何度も妻の病室へ足を運んでくださいました）
- ・ 子供の退院時期について親身に相談に乗ってくれた看護師長さん。
（心配しなくても、子供はちゃんと見てくれると言ってくださいました）
- ・ 帝王切開手術後にすぐ、生まれたての子供の写真を見せてくれた産婦人科の先生。
（産後のつらい時期を乗り越えるための気力が湧きました）
- ・ 下垂体手術後に子供の面会に行ったときに、子供を近くまで見せにきてくれた看護師さん。
（面会時間は過ぎてましたが合わせてくれました）

他にもみなさまからたくさんの温かさをいただきました。

わが子へ。。。

おとうさんとおかあさんは
あなたが生まれてくるのをずっと待っていました
あなたが生まれたときは本当にうれしかった

よくがんばったね

おかあさんもがんばってたよ
おとうさんは泣いてしまいました

生まれてきてくれて本当にありがとう

これから色々なことを教えてあげるね
おとうさんとおかあさんにも色々なことを教えてね

あなたにすばらしい未来がおとずれるようねがいをこめて

『 來花 』

という名前をつけました

おとうさんとおかあさんはあなたのことが大好きです
これからどうぞよろしくね

妻へ。。。

帝王切開による出産、そして、出産後すぐの下垂体手術。
途中であきらめず、大きな苦難を乗り越えてくれて本当にありがとう。

あなたの目が見えにくくなり、下垂体の異常が分かったとき、

もし、発症するなら、今までいくらでも時間はあったのに。。。

今まで、異常はなかったのに。。。

ずっと待っててやっと授かった子供なのに。。。

なんで、今なんだろう。。。

なんで、今、こんな事になってしまったんだろう。。。

と、あなたは言いました。

でも、それは普通に出産すると、あなたの生命が危ないので、
僕たちの子供が生まれてくる直前に教えてくれたのだと思います。

僕たちの子供はきっとやさしい子だから。。。

あなたのわが子に対する強い思いを知りました。

でも、あなたの弱さも改めて知りました。

あなたは気丈にふるまうので、時に頑張りすぎるところがあるけれど、
支えるところは、僕がちゃんと支えるので、頼ってくれて大丈夫です。

これからは、親子でお互いのことを思いやりながら。。。

支えあいながら共に歩んで行きましょう。

これから幸せな日々がたくさん訪れますように。。。

2010年7月

おこちゃまメモリーズ

2010年 7月 発行

著者：ひとする
